現職の壁厚し！〈知事選特集〉

込む熾烈な一騎打ち

支援する高齢者軍団

弱小県、福井県のトップを決める来春の知事選が早くもヒートアップ。まさに天下分け目の関ヶ原の戦いは、火蓋が切られた。自民党県連は推薦を巡って激しい応酬を繰り広げ、同時選挙の県議は連名で現職に血判状を差し出す始末。経財界は現職、建設業協会は新人と二分され、県民が取り残されている感があるが、選ぶのは県議でも各種団体でもなく県民であり、県民の審判を問う重要な選挙。新元号の下、知事の椅子は杉本達治氏か、西川一誠氏か、４か月後に決まる。

人口１００万人以下の知事を見ると、西川氏が最高齢、72歳の溝口島根県知事はすでに不出馬を表明。

続投か、新しい風か 真価が問われる

現職、西川一誠陣営の総大将は今回も代わらず御年78歳の川田達男福井商工会議所会頭と勝木健俊後援会長の指揮官の下、日華化学江守康昌氏、フクビ化学八木誠一郎氏の陣営で新人を迎え撃つ。

一方、杉本達治陣営は総大将が山崎正昭自民党県連会長、斎藤新緑県会自民党会長、田村康夫、清水智信県議の指揮官の下、福井、坂井市会の保守系議員が戦闘員として先頭に立ち戦火を交える。

栗田幸雄前知事は４期で勇退を表明し、西川一誠氏を後継者とした。西川知事もスムーズに杉本さんにバトンを渡せば県下を二分する争いは起こらない。福井県を舞台に自治省出身者が両陣営に分かれての争いは醜い限り。

栗田後援会より引き継いだ経済界や17市町にある後援会組織は盤石そのものだが、高齢化が難点。川田セーレン会長と勝木西川後援会会長の真価が今回こそ問われる。

杉本氏は組織に頼らず自己アピールを無党派層や若者に向けて地道に発信していくと新しい風も吹いてくる。

地域に密着した市会や町会は長期政権に刷新を求めている議員も多い。年寄りが高齢者知事を支援するのに安定はあっても改革は進まない。このままでは、若者は将来が見えにくく夢も描けず、人口流失に歯止めがかからない。長らく続いた西川支配が続いたこともあり、県職員の７割方が反西川と思われ、早くも内部から西川陣営の怪文書が出回った。能力のある幹部を次から次へと切り捨てる西川知事に泣いた人も多く見られ、